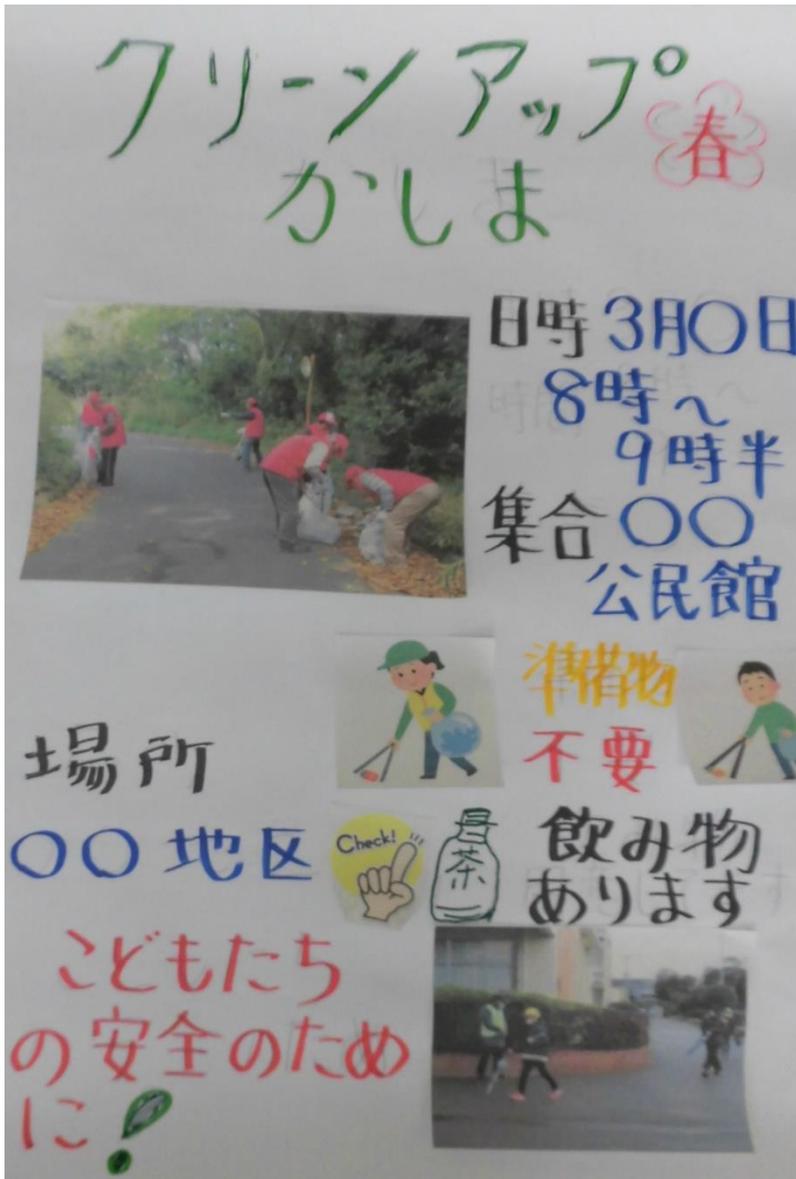


【ワークショップ成果物：鹿島①】



～講師講評～

- 「クリーンアップかしま春」という若い世代を意識したネーミングが Good !
- 「こどもたちの安全のために！」というキャッチフレーズが一番下に来ていることがもったいないので、枕詞のように上に持ってくるといい。
- 当日、若い人やお子さんが来た時に「綺麗にしたよ！」というアピール写真を撮っておくと、来年のチラシにインパクトのある画像を使える。
- 画像は“引き”よりも“寄り”のものを使ったほうが、インパクトが出る。

【ワークショップ成果物：鹿島②】



～講師講評～

- チラシは基本、お知らせするものなので「お知らせ」の文字は不要。
- この事業の魅力が伝わるような何かキャッチフレーズがあるといい。
- 非常食試食会に無料のサインがあることは Good !
- 下のイラストにも訓練内容が伝わるような最低限の見出しがあるといい。

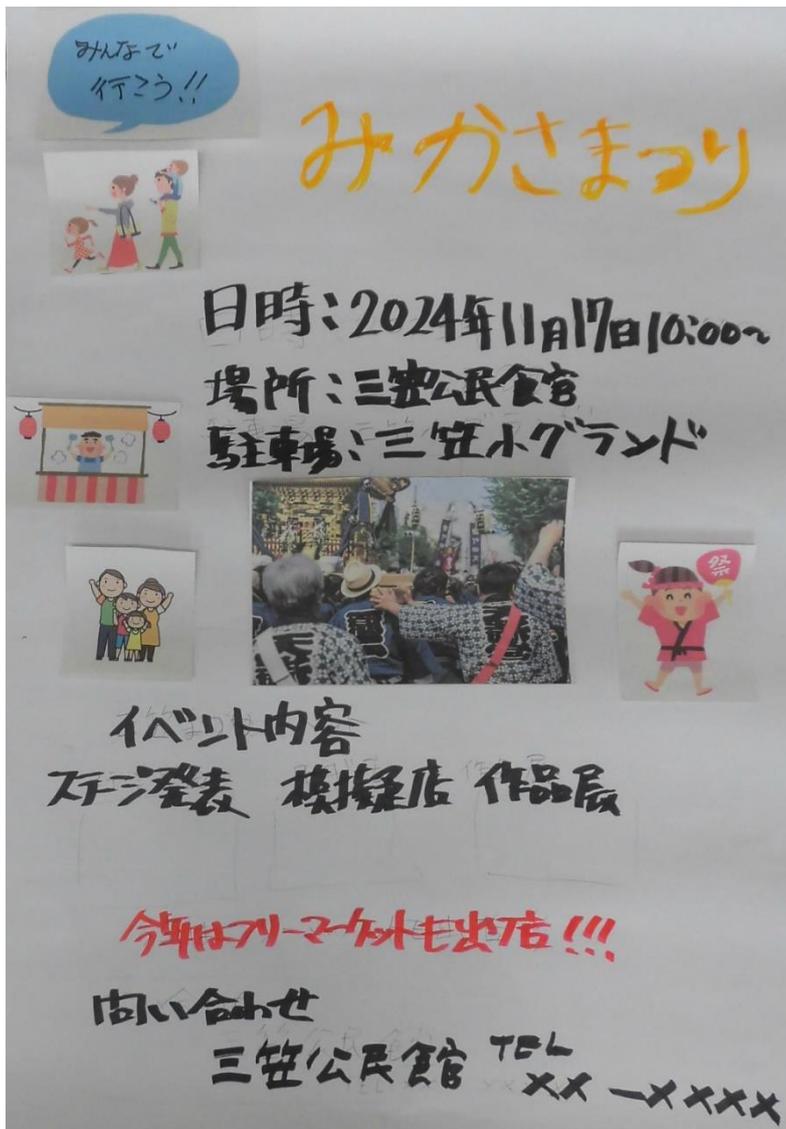
【ワークショップ成果物：三笠①】



～講師講評～

- 「みんなで楽しく 住み良い地域」というキャッチコピーだけでは、どういう意図のチラシなのかが伝わりづらい。
- 例えば、地域のお祭りが一番の魅力なのであれば、その画像に対する見出しや、こういった歴史があるのかなどのキャプションを付けるといい。
- 子育て中のお母さんの画像についてもそうだが、その地域で重点的に取り組んでいることは「見出し・画像・キャプション」のセットで掲載すると伝わりやすい。

【ワークショップ成果物：三笠②】



～講師講評～

- このイベントの一番の魅力、重要度Aの情報を「大きな写真・見出し・キャプション」で伝え、次点となる重要度Bの情報は小さいマスに載せるといった、情報の強弱が付けられるといい。
- 「今年はお祭りも出店！」と下に小さく書かれているが、これは意外と重要な情報で、ハードルが低く誰でも参加できるので、上に持ってくればこのチラシを見ていただく可能性も高まる。

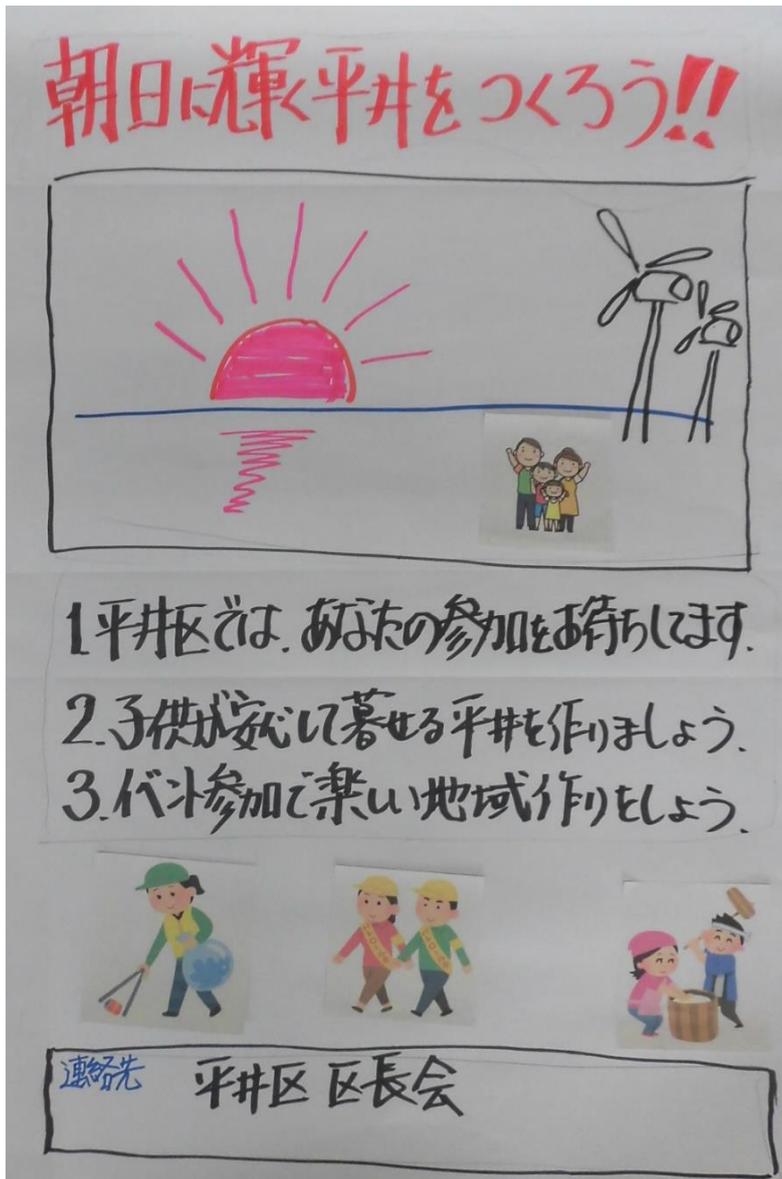
【ワークショップ成果物：高松】



～講師講評～

- 「まちをきれいに」というキャッチフレーズだが、例えば、川のほとりであれば「ここにホテルを復活させよう」とか、この清掃の意義を訴えるようなキャッチフレーズであればなおいい。
- イラスト等の使い方に遊び心があって Good!
- 「集めたゴミは分別しよう!」とあるが、例えば、分別の仕方を教えるワークショップなどを同時開催すれば、よりこのイベントの参加意義や魅力も高まると思う。

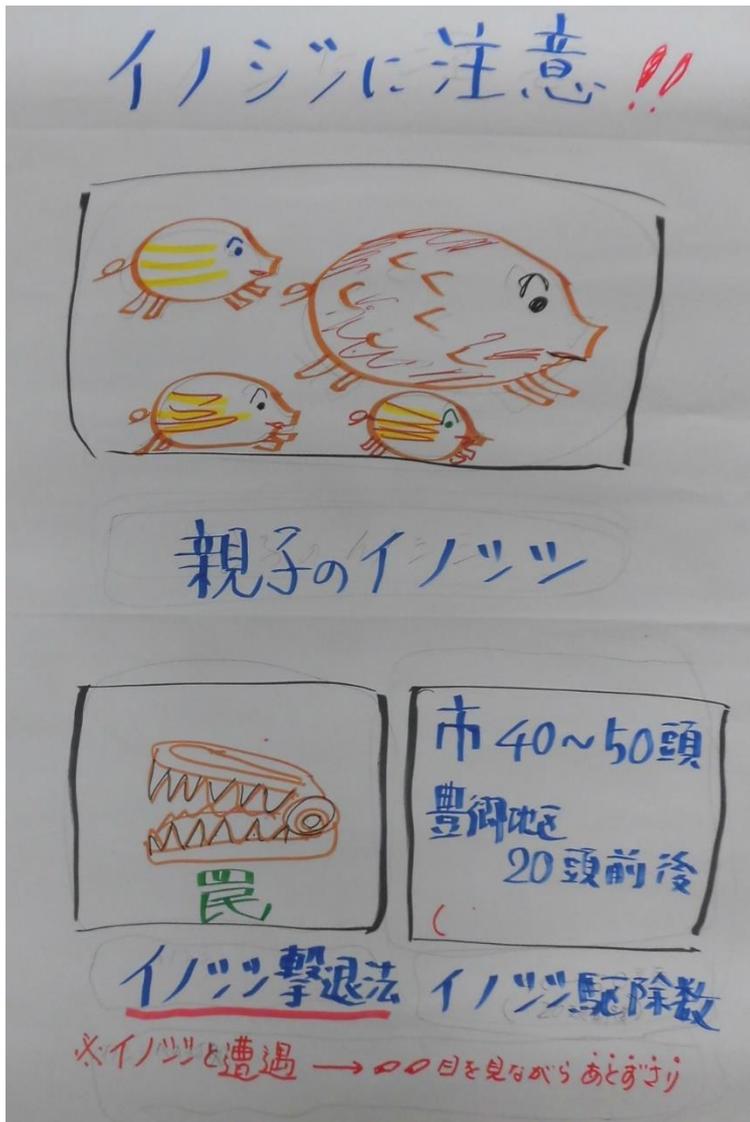
【ワークショップ成果物：平井】



～講師講評～

- 「朝日に輝く平井をつくろう！」というキャッチフレーズは Good だが、具体的にどういう状態を指すのか、もう少し説明があるといい
- 「あなたの参加をお待ちしています」というラブレターになっているところも Good だが、より具体的に、こういった活動に参加してほしいのかなどの記載があるといい。
- 「子供が安心して暮らせる」の部分も、例えば「自治会が防犯灯を管理していることで安全に道を歩けています」といった具体性を持たせるといい。

【ワークショップ成果物：豊郷】



～講師講評～

- お子さんも目を引くような可愛らしいイラストが Good !
- 単に「イノシシ注意」だけでなく、こういった点に注意する必要があるのか、ポイントを挙げるという。
- 「親子のイノシシ」は絵に対するキャプションなので、文字は小さくていい。
- イノシシを撃退して自治会が役に立っているということをPRするのか、地域住民にイノシシの対処方法を伝えるのか、「誰に何のために」作るチラシなのか目的意識をはっきりさせると、より伝わりやすいチラシになると思う。

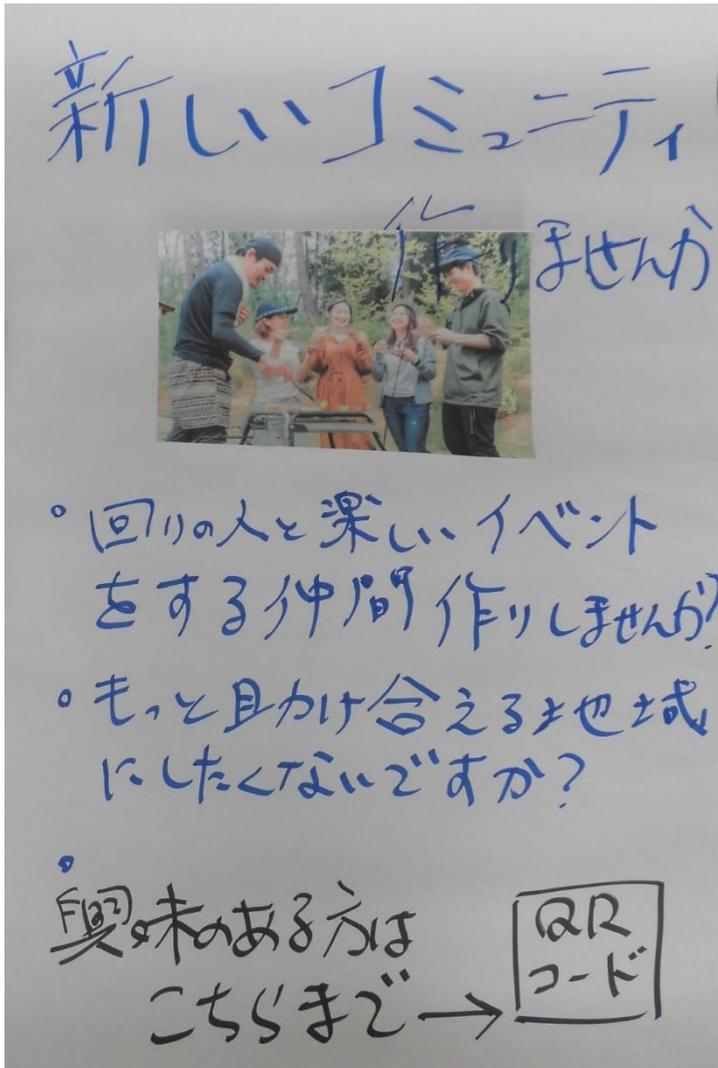
【ワークショップ成果物：鉢形・波野】



～講師講評～

- 地区の名前は左肩に小さく載せて、体育祭のタイトルをもっと工夫できるといい。例えば、これは地域によるが「体育祭」というイベント名だと義務的に感じられるので「スポーツフェスティバル」という名前にすれば、若い人も参加しやすくなる。
- 競技内容を横並びにしているが、一番の目玉であるイベントを大きく写真とともに載せるといい。
- 参加条件が分かりづらいので、誰が参加できるのかを載せるとより参加しやすくなる。

【ワークショップ成果物：大同東】



～講師講評～

- ワークショップ中にお話しを伺ったところ、この地域では自治会消滅の危機にさらされているところまで来ており、その中で、若い人がもっと参加して集まれるような場所があればいいというお話だったので、ぜひそういった趣旨のチラシを作ってみましょうとお声がけした。
- 地域の様々な課題に取り組んでいくにあたっては、まずは関係性を築いて仲間をつくっていくところからなので、若い人が集まるような楽しそうなイベントを企画すれば、実際に集まってもらえると思う。チラシだけでなく一本釣りで直接声をかけていくということもアリ。ぜひチャレンジしていただきたい。

【ワークショップ成果物：中野東】

かしまの塩

日時 2024年7月21日(日)  
8時～17時  
場所 はまなす公民館

無料

塩分はゆえめに！  
参加はゆえめに！  
体験は大切に！

釜揚げ

申込み先  
はまなす公民館  
TEL: 69-6211

塩の目量

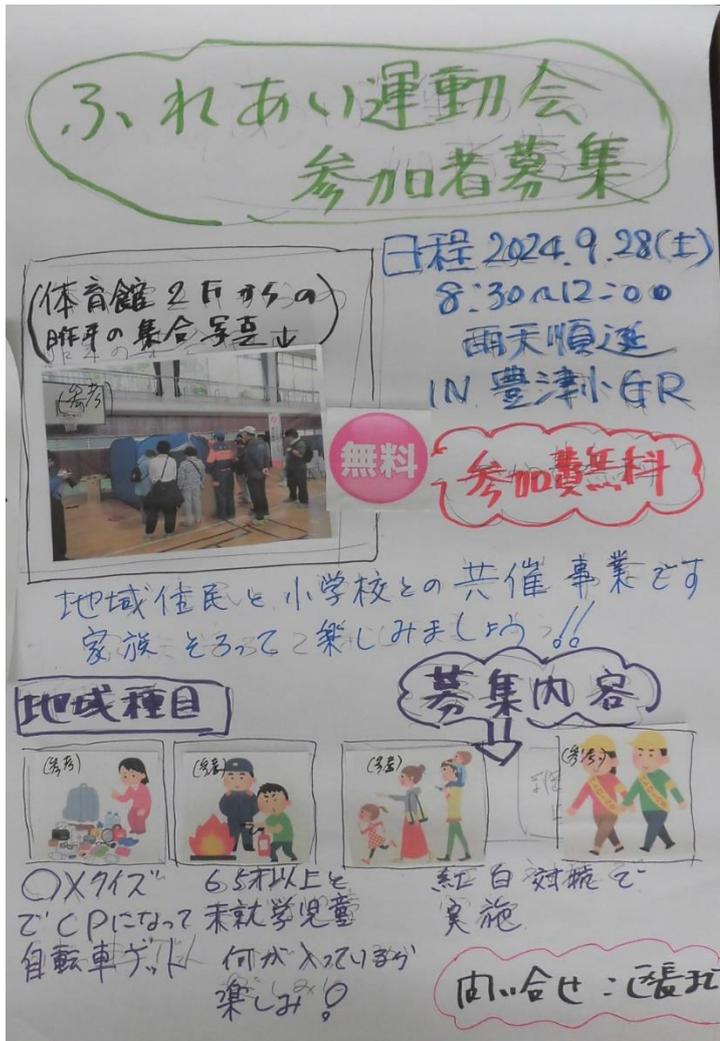
Check!



～講師講評～

- 「塩分はゆえめに！参加はゆえめに！体験は大切に！」のキャッチフレーズが非常に素晴らしい。
- 例えば、スーパーで売られている普通の塩とどういった違いがあるのか、釜揚げの工程としてはどういったステップがあるのか、などといった、このイベントに参加する意義や魅力を伝えられるとなおいい。
- お子さんにもっと来てほしいという狙いがあるのであれば、アップでお子さんが塩づくりしている様子の写真をトップに持ってくると、他のお子さんも「自分も参加してみたい」と触発される。

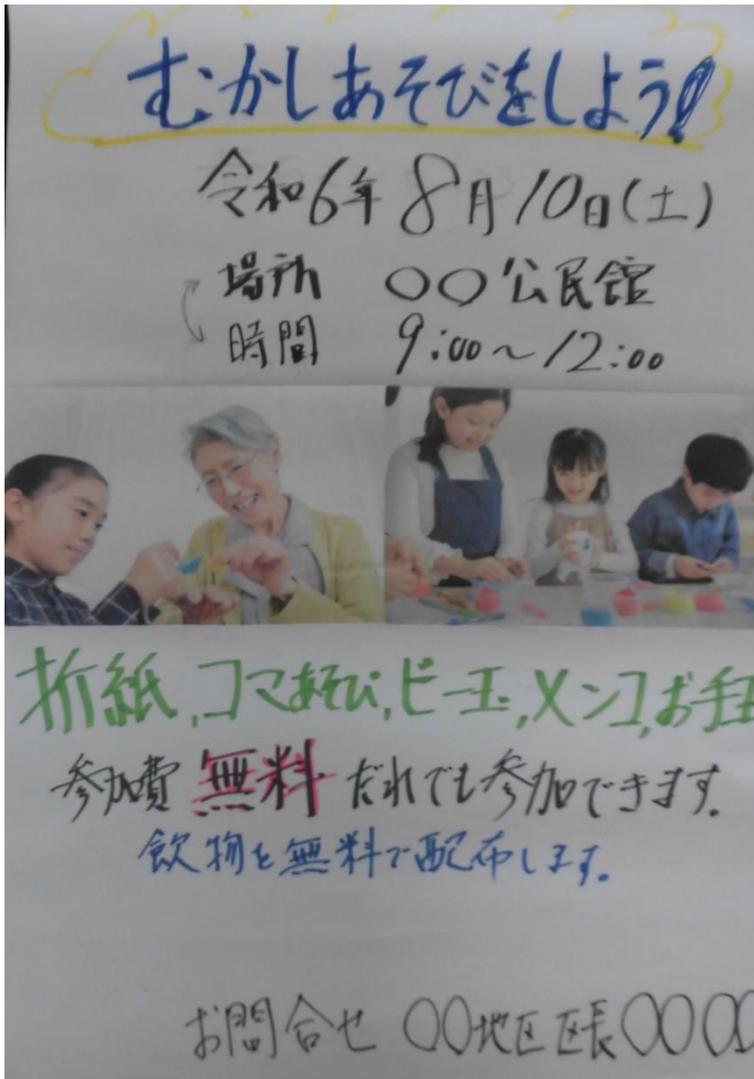
【ワークショップ成果物：豊津・中野西】



～講師講評～

- 単にイベント名だけでなく「参加者募集」まで入れているので、タイトルでこのチラシが何を謳っているかが見た瞬間に分かるので Good!
- タイトルに「参加者募集」とあるので、その次に、どういう参加者を募集しているのか、「地域種目」「募集内容」の記載が上にあるといい。

【ワークショップ成果物：大同西】



～講師講評～

- 「参加費無料」「誰でも参加できます」という文言があれば、自治会に入っていない方も「私も参加していいんだ」と思えるので、必要な情報がきちんと示されており Good!
- アンケートを実施して「参加してみてこういうところが良かった」という生の声を写真とともに次回のチラシに掲載すれば、より魅力も高まる。